

委員	ページ	行数	文章	意見等	回答(案)
岩田知孝	2～3	17, 37, 11	図2	図2は存在せず、図2-1～図2-3が存在しているので、それぞれ対応するように、図2-1または図2-2の断層番号1から9、図2-1または図2-2の断層番号a-k、図2-1または図2-3の断層番号10-23、図2-1または図2-3のl,m とするのが親切。	ご指摘のとおり修正しました。
岩田知孝	6	19-24	エネルギー・金属鉱物資源機構、及び海域における断層情報総合評価プロジェクトの説明	このままでは、これらの調査成果が本評価にどのように活かされたかがわからないのでは？ 前者については、どのあたりの調査をしていて、(例えば得られた反射断面を本評価に活用した、といった表現が、後者は、「基礎資料の整備をした」ということだが、それを本評価に使ったのかどうか、といった説明が要るのではないのでしょうか？	以下のとおり修正しました。 ―― 測線間隔は20 km以上であるが、資源探査を目的とした大容量エアガンを音源とするマルチチャンネル反射法地震探査がエネルギー・金属鉱物資源機構によって本評価海域の全体にわたって実施されている。 「海域における断層情報総合評価プロジェクト」(文部科学省研究開発局・海洋研究開発機構、2020)では、断層の活動性についての評価は行っていないが、上記によって得られた反射断面及び断層情報を含むデータを収集・整理し、活断層とそれに伴う地震動・津波の評価のための基礎資料として整備しており、本評価でも上記の反射断面や断層情報の確認のために活用した。
岩田知孝	図1			図1の地図そのものに、東部地域、西部地域といった名称を入れた方がよいのではないのでしょうか？	ご指摘のとおり修正します。
岩田知孝	図4		図4の図説	図5、は、ない、ので、図5-1、図5-2に示した反射断面……とすべきではないでしょうか？	ご指摘のとおり修正しました。
岩田知孝	11	37	この地震は十勝沖地震の3日後に発生	何か意図があるのでしょうか？誘発地震とか？離れた地震の関係が一般に取り沙汰される時がありますが、必要ないように私は思います。	ご指摘のとおり該当の記述を削除しました。
岩田知孝	14	30	信頼度○、△について	いきなり、○、△と本文のここ出てきますが、(信頼度については注2を参照)といった記載があってもよいのかもしません。	○、△の記号が初めて出てくる文(13ページ1行目)の文末を以下のとおり修正しました。 ―― 「それ以外は△とした(信頼度と記号の関係については付表1を参照)。」
岩田知孝	15	39	酸素同位体ステージ	海洋酸素同位体ステージ(Marine oxygen Isotope Stage, MIS)ではないのでしょうか？	ご指摘のとおり修正しました。
岩田知孝	32	19	一方、海岸から5-10 km以内の陸に近い海域は断層を認定するための反射法地震探査等のデータが欠落している	図3-1、3-2からは、今回の対象地域全面において、そうは言えないように見えます。「一方、場所によっては海岸から5-10 km以内の陸に近い海域は断層を認定するための反射法地震探査等のデータが欠落しているところがある」といった記載がよいように思います。概要版では書きぶりで、全般的にない、といった感じにはなってはいませんが(どうとでもとれる)……	「場所によっては」を追記しました。
岡村行信	7	18-19	Itoh et al.(2002)や阿部ほか(2010a, 2010b)等によつて	Itoh et al.(2002)、海上保安庁海洋情報部(2004)、阿部ほか(2010a, 2010b)等によつて	ご指摘のとおり修正しました。
岡村行信	8	22	日本列島はユーラシア大陸沿岸に沿って形成されていた火山弧が、漸新世から	日本列島は、ユーラシア大陸沿岸に沿って形成されていた火山弧が漸新世から	ご指摘のとおり修正しました。
岡村行信	9	36	海域活断層については、杉山ほか(2013)によってまとめられた。	海域活断層については、海上保安庁海洋情報部(2004)や電力会社の調査報告があり、それらを杉山ほか(2013)がまとめている。	ご指摘のとおり修正しました。
岡村行信	14	11-16	「なお、」で始まる文章が2つ連続する。	2つの文章の前後を入れ替え、前の文章の「なお」を削除。「表5の用になる。大陸地殻…整合的である。なお、文部科学省研究開発局……としている。	ご指摘のとおり修正しました。
岡村行信	17	29-37		わかりにくい。能登半島北岸断層はBPT、それ以外の断層はポアソン過程と用いたことを明確に分けて書いてほしい。	以下のとおり、修正しました。 ―― 個々の海域活断層で今後30年間に地震が発生する確率は、地震調査研究推進本部地震調査委員会(2001)に従い、平均活動間隔ならびに最新活動時期が判明している能登半島北岸断層帯とそれ以外の海域活断層とで異なる方法を適用した。 能登半島北岸断層帯に対しては、BPT(Brownian Passage Time)分布を適用して算出した。この時、活断層で発生する固有規模の地震(固有地震)の活動間隔のばらつきのパラメータ $\alpha=0.24$ 、算定基準日を2025年1月1日とした。 その他の最新活動時期が不明な海域活断層に対しては、平均活動間隔をもとにポアソン過程に基づく式(6)を用いた。  $P(t)=1-\exp(-t/R)$ (6)  ここで、 $P(t)$ は評価単位区間において、今後t年間に評価単位区間が少なくとも1回活動する確率を表す。
岡村行信	22	34	文献追加	横断していない(岡村ほか、2007)。	ご指摘のとおり修正しました。

委員	ページ	行数	文章	意見等	回答(案)
岡村行信	図4		図4の(m)-2の断面位置の線が短い。	図4の(m)-2の断面位置の南端を陸側へ伸ばす。図を添付。	ご指摘のとおり修正します。
仲西理子	1	37	大聖寺沖、越前岬沖	図11の引用があるとよい	歴史地震については、4(2)-2(11ページから)で述べられており、図11についてもここで言及されているため、本文では引用しないことにしました。
仲西理子	7	9	活断層の地域評価	引用があるとよい	現在、公表に向けて審議中の地域評価であるため、引用には含めずに「これらの断層は別途、活断層の地域評価で検討している。」としました。
仲西理子	7	33-37		個別に説明があるのか？	可能性のある構造と可能性の低い構造については付録9、付表3-1、付表3-2で述べています。本文には付録9を引用しました。
仲西理子	8	21	方向性	走向？	地形についての言及のため、「方向性」としています。
仲西理子	9	12	第7図	図7	ご指摘のとおり修正しました。
仲西理子	12	8-13		このあたりの地震名や地名については図はなくてよいか？	ご指摘の地震については、M6以上について図1に示しています。地名については主なものを図6に示しています。
仲西理子	14			図15の説明は追記予定？	図15に関連する以下の記述を追記し、引用致しました。 ―― 一方で、2024年1月1日の石川県能登地方の地震(M7.6)に伴う地震活動について、海陸観測網を用いた震源分布が明らかにされている(Shinohara et al., 2025、図15)。それによれば、富山トラフ西縁断層周辺では15 kmよりもやや深い18 km程度まで地震活動が見られている。そこで本評価では、富山トラフ西縁断層における地震発生層の下限の深さを15～20 km程度と評価した。
仲西理子	14	22-25		表1-2に追記した理由がここに書かれているが、表の説明として不要か？南西部との比較として。	表には注で数字の根拠を記載しています。
加納靖之	1	33-34	右横ずれ成分を持つ逆断層あるいは逆断層	2回目の逆断層は横ずれ成分を含まない逆断層と読めばいいのでしょうか？ 純粋な、などを補うと説明しすぎなのでしょうか	「横ずれ成分を伴う」と記述するだけの横ずれ成分を含むか、ほぼ逆断層成分で表現できるか(多少は横ずれ成分を含む)の違いを表現したもので、基本的に陸域の主要活断層帯における記述方法を踏襲したものになります。分かりにくい部分がありましたため、本文では、「逆断層」を「逆断層(横ずれ成分を伴うことがある)」に修正致しました。
加納靖之				北丹後地震で地表地震断層を生じたことはどこかに書かれているのでしょうか？	表4に「地表地震断層を伴った」を追加しました。 また11ページ34行目の「～1927年北丹後地震(M7.3)が最大であり、峰山町(現・京丹後市)などに多数の～」を「～1927年北丹後地震(M7.3)が最大である。この地震は地表地震断層を伴ったことが知られており、峰山町(現・京丹後市)などに多数の～」と修正しました。

概要に対する意見

委員	ページ	該当箇所	文章	意見等	回答(案)
小原一成	1	地図		東部区域と西部区域の範囲が分かりにくい。恐らく、破線で示されている区域の境界の線が背景の海底地形の陰影上で見えにくくなっているためだと思われるので(特に東部区域の東側)、線を太くするなど、わかりやすくしたほうが良い。さらに、区域の範囲を明確にするために、地図上で両矢印などを使って範囲を明示すると、もっとわかりやすくなるので、検討いただきたい。	ご指摘のとおり修正しました。
小原一成	2	2つ目の丸ポツ	今回、日本海中南部として、近畿地方北方沖～北陸地方北方沖海域の長期評価を公表	1ページ目の表紙では、近畿地域・北陸地域北方沖となっているので、「地方」と「地域」が混在しないようにするとよい	ご指摘のとおり修正しました。
小原一成	4	3つ目の丸ポツの中の2つ目の✓	活動性	具体的に何を指すのか、どこかで定義するとよい	活動性を説明する注を追加しました。
小原一成	4	4つ目の丸ポツ	特性	この後もたびたび使われるが、具体的に何を指すのか、どこかで定義するとよい	3歩つの説明に「特性」を追加し、特性の意味するところが分かるようにしました。
小原一成	4	左下の囲みの中の2ポツ目	・主要活断層帯の海域部は含めない	「陸域の地域評価と重複するため」などと理由を明記してはどうか	ご指摘のとおり理由を追記しました。
小原一成	6	地図		「今回特性評価しない」は、「今回は評価対象としない」の方が分かりやすいと思われる	ご指摘のとおり修正しました。